

第二節 議事經過ノ概要

議事經過
概要

陸軍々備制限ノ問題ニ關シテハ十二月二十一日ノ第三回總會議ニ於テ佛國首席全權「ブリアン」氏ハ戰後ニ於ケル歐洲政局ニ付テ述ヘ困難ナル佛國ノ立場ヲ詳細ニ説明シ佛國政府ニ於テハ其ノ内國兵ノ關スル限リ法律上三年兵役制ノ嚴存スルニモ拘ラス政府ノ責任ヲ以テ二年兵役制ヲ斷行シ更ニ進ンテ近ク一年兵役制ノ實施ヲサヘ敢行セントスル意圖ナル旨ヲ述ヘ獨逸ノ脅威ノ下ニアル佛國ニ對シ是以上ノ制限ヲ求ムルハ不能ヲ強フルモノナリト説キ斷然タル態度ヲ以テ陸軍々備ノ制限ニ反對シ次ニ加藤全權ハ陸軍ノ軍備ヲ各國ノ安全及各國領土内ノ秩序維持ニ必要ナル限度ニ止メ以テ人民ノ負擔ヲ輕減セントスル主張ハ日本ノ衷心贊意ヲ表スル所ナルモノ一國陸軍々備ノ規模ハ固ト其國ノ地理的地位及其他ノ事情ニ依リ決セラルヘキモノナルニ此等ノ基礎的要件タルヤ本來頗ル錯綜複雜セルノナルヲ以テ之ヲ比較スルコト容易ナラス從テ陸軍ニ關シテハ海軍ニ於ケルカ加ク其一般の制限案ヲ考案スルコト容易ナラサル事情アリ乍去日本カ極東ノ事態ニ依リ純然タル國防上ノ目的ノ爲メ絶對ニ必要トスル軍備以上ノ陸軍々備ヲ維持スルノ意圖ヲ毫末モ抱藏セサルコトノミハ之ヲ承知セラレ度シト明言セリ本問題ハ更ニ十一月二十三日第二回總委員會及同日午後ノ首席全權ノミニ會合タル第二回議題及議事進行委員會ニ於テ討論シ英伊兩國代表ハ切リニ何等カノ形式ニ於テ一般の協定ヲ遂クルノ必要ヲ力説シタルモ佛國側ノ態度強硬ニシテ陸軍々備ニ關シテハ遂ニ何等ノ協定ヲモ見ルニ至ラス唯戰時法規、航空、毒瓦斯ノ三問題ニ關シ専門分科會ヲ設置セルノミニ終レリ(第二篇參照)

第三回總
會議第二章 第三回總會議ニ於ケル陸軍軍備ニ關スル
各國全權ノ聲明

千九百二十一年十一月二十一日ノ第三回總會議(Plenary Session)ニ於テ始メテ陸軍軍備制限問題論セラレタルカ其際ニ於ケル各國全權ノ演述セル要領左ノ如シ

「ヒューズ」

一、米國國務卿「ヒューズ」(Hughes)氏(議長)

陸軍軍備問題ハ米國ニ於テハ既ニ解決セラレタルモノト謂フヘシ蓋シ米國ハ其ノ正規兵ヲ最小限度ニ止ムルノ傳統的の政策ニ從ヒ休戰ト共ニ四百二十萬ノ軍隊ノ復員ヲ開始シ年餘ニシテ正規兵十六萬以下ニ是ヲ減縮スルコトヲ得タレハナリ

然レトモ米國以外ノ諸國ニ於テハ其ノ陸軍ヲ減縮スルニ特殊ノ困難アルコト即チ或ハ危惧ノ念ヨリ或ハ國家ノ安全ニ對スル根本條件ノ點ヨリ遽ニ之ヲ實行シ得サルハ吾人ノ良ク知ル所ナリ

茲ニ此等ノ諸國ヲシテ各其ノ特殊ノ事情ヲ本會議及全世界ニ向ツテ披瀝セシムルハ機宜ヲ得タルモノナルヘシ

二、佛國首相「ブリアン」氏(Briand)

諸君余ハ全世界ノ視聽ノ集レル此演壇ニ立チテ特種ノ感無キヲ得ス余ハ諸君カ此公開ノ席上ニ於テ先ツ佛國代表タル余ニ對シ發言ヲ許サレタルコトニ付キ謝意ヲ表スルト同時ニ余ハ此期ヲ利用シ世界ノ平和確立ニ關シテ最熱心ナルモノアル佛國ノ真情ヲ諸君及全世界ノ前ニ披瀝セント欲ス

若シ此際吾人ハ凡テヲ犧牲トシ吾人ハ凡テノ安全ヲ保障サレ而シテ凡テノ軍備ヲ撤シテ尙確定的ナル平和ニ安スヘシト稱スルヲ得ハ諸君之レ又余ニトリ最モ欣幸トスヘキモノナリト雖モ然レトモ不幸ニシテソハ不可能ナリ

余ハ何故ニソノ不可能ナルヤヲ説明セサル可カラス又佛國ハ現在如何ナル地位ニ置カレタルヤヲ明ニセサル可カラス平和ヲ得ンカ爲メニハ一國ノミニ於テ之ヲ能クスル處ニ非ス又一方ニ於テ軍備撤廢ハ單ニ有形的手段ヲ採ルヲ以テ足レリト爲スコトヲ得ス即チ現役兵ノ數ニ縮少ヲ加ヘ軍事材料ヲ減少スルモ茲ニ謂フ「平和の雰圍氣」即一國ノ存スル四圍ノ事情因果シテ平和のナリヤ否ヤヲ度外シテ如斯重要ナル問題ヲ思考スルヲ得サルヘシ即チ軍備撤廢ハ有形的方面ニ對スルト同時ニ無形的方面ニ於テ行ハレサル可カラス然リ而シテ現在ノ歐羅巴ヲ見ルニ今尙不幸ニシテ大ニ不安定ナルモノアルヲ認メサルヲ得ス佛國ハ自國ノ安全上看過シ得サル幾多ノ事情アリ

合衆國ノ多クノ人々ハ大戰中佛國ニ在リ佛國ノ慘狀ハ之ヲ目撃セラレ又同時ニ佛國ノ地位及歐羅巴ノ事情ハ知悉セラルル所ナリト雖モ亞米利加ニ於テハ歐羅巴ニ見ルカ如キ面倒ナル國境ナク其廣大ナル版圖ニ於テ陸上ヨリノ敵ニ對シ備フヘカラサルモノナシ誠ニ大戰後歐大陸ノ思想ハ實際上如何ナルモノナリヤ殆ト了解シ得ラレサル所ナルヘシ

已ニ大戰ハ終局ヲ告ケ平和條約ハ成立セリ獨逸ハ僅少ノ軍備軍隊ヲ有スルニ過キス何處ニ歐洲ニ於テ平和ノ確立ヲ妨クルモノアリヤ何故ニ佛國ハ尙尨大ナル軍備ヲ擁スルノ要アリヤト言フ合衆國民ノ聲ハ余モ之ヲ認ムル事ヲ得

或ハ佛國ニシテ尙軍備ヲ休メサルモノハ穩然歐洲ニ軍事的霸權ヲ確立シ舊獨逸ノ軍國主義ノ後繼者タラントスル野心アルモノナリト説クモノアリト雖モ

然レトモ諸君ハソハ佛國ヲ誣フルモノナリ吾人佛國人ニトリテ最モ苦痛ニシテ殘酷ナル誹謗ナリ

然レトモ佛國ハ之等誹謗ヲ甘受セサル可カラサルカ如キ態度ヲ採ラサルヘカラサル必要狀態ニアリトハ最モ悲シムヘキ事ナリトセシヤ而シテ佛國ハ其國情ヲ知リ之等誹謗ノ當ラサルヲ知レルモノニ對シテスラ信ヲ求メ得ストセハ佛國ノ失望ハ之ヨリ甚シキハ無シ

平和ノ爲メニ最モ眞摯ナル態度ヲ示セルハ佛國ナリ休戰以來佛國ハ幾度カ欺レタリ一有餘年間佛國ハ穩忍セリ而モ獨逸ハ講和條約ノ署名ヲ躊躇シ其當然ノ天罰タル賠償ノ支拂ヲ拒否シ其軍備制限ヲ受諾セサラントセリ

此時ニ當リ佛國ハ強力ヲ擁シ獨逸ハ之ニ抵抗シ得ヘクモ非ス輿論ハ勿論獨逸ノ如斯態度ニ對シ平靜ナルヲ得サリシト雖モ佛國ハヨク忍ンテ事態ヲ紛糾セシムルコトヲセサリキ

余ハ茲ニ明言スルコトヲ得佛國ハ何等宿意ヲ藏スルコトナシ佛國ハヨク獨逸トノ衝突ヲ避ケ相共ニ平和ヲ營ムカ爲メニ何事ヲモ辭セサルヘシ

但シ佛國ハ自國ノ在ル地位ヲ顧ミ全部自カラ犧牲タルヲ得ス佛國ハ自カラ其力ヲ弱メテ以テ或種ノ人ノ之ニ乘ンテ再ヒ戰爭ヲ思ハシムルカ如キ事ヲナスヲ得ス

余ハ先ニ獨逸ノ精神の方面ヲ述ヘタリト雖モ余ハ決シテ不公平ニ之ヲ誣イントスルモノニ非ス

獨逸國民中勤勉ニシテ事理ニ通シ戰爭ノ慘害ヲ避ケ民主的組織ノ中ニ平和ヲ求メントスルモノ多カルヘシ如斯獨逸ニ對シテハ吾人ハ喜ンテ其企圖ヲ助ク而シテ將來其共和政治ノ下ニ國情安定セハ吾人ハ獨逸ニ對シテ何等不安ヲ感スルコトナキニ至ルヘシ然ルニ或獨逸人ハ此大戰ニ於テモ啓發ヲ受クル事ナク戰前ノ穩然タル目的ヲ忘レス「ホーヘンツォレルン」ノ野望ヲ捨テサルモノナリ如斯獨逸ヲ吾人佛國人ニ如何ニシテ看過スヘキヤ我ハ彼ト境ヲ接シ彼ノ一言ハ直ニ我耳ニ達シ一動我視目ヲ離ルルヲ得ス何人モ「カツプ」ノ「クレーデター」ノ眞意ヲ知ラサルモノナカルヘシ若シ彼ニシテ成功セハ即世界ノ平和ヲ攪亂セル舊獨逸ノ出現ナルヲ疑フモノナカルヘシ

獨逸ノ知識階級ニ於テ大ナル勢力ヲ有スル「ルーデンドルフ」元帥ハ其著述ノ中ニ果シテ何ヲ言ヘリヤ余ハ無益ニ之ヲ引證シテ長時間諸君ヲ煩スヲ欲セサルナリト雖モソハ余ノ言ハント欲スル所ノ骨子ヲナスモノナルヲ以テ諸君幸ニシテ之ヲ許サレヨ

「ルーデンドルフ」元帥説イテ曰ク「吾人ハ戰爭時代ニ生レタルヲ知ラサル可カラス戰爭ハ個人ニ於ケルト同シク國家ニ取リテモ一ツノ自然現象ニシテ神意ニヨル宇宙ノ秩序ニ基クモノナリ」ト彼ハ又彼ノ恐ルヘキ「モルトケ」ノ言ヲ假リテ曰ク「永久ノ平和ハ夢ナリ然モ美シカラサル夢ナリ戰爭ハ神意ニ基ク宇宙ノ秩序ナリ戰爭ニヨリ最モ高尚ナル人ノ徳

行ハ發達シ義勇奉公ノ念ハ其精萃ヲ發揮スヘシ戰爭無クンハ世界ハ物質主義ノ中ニ沈倫スヘシ」ト又曰ク「如斯觀念ハ亦將來ニ於テモ戰爭ハ政治的終局ノ決定手段ナルヲ教フルモノニシテ獨逸國民政治的教育ニ缺クヘカラサルモノナリ縱令協商國ハ吾人ヨリ此思想ヲ芟除セントスルモ能ハサルヘ實ニコレ現在及將來ニ互リテ獨逸國民ノ政治的觀念ノ基礎ヲナスモノナリ」ト説ケリ

最後ニ「ルーデンドルフ」將軍ハ述ヘテ曰ク「普魯西亞軍及獨逸軍ノ好戰的特質ハヨク劍戟ノ間ニ表ハル獨逸國民ノ道德的向上ハ戰爭ニアリ古ノ武士ノ精神ハ如斯道德的向上ノ原動力タラスンハ非ス」ト

諸君之レ獨逸ニ於ケル最高權威者ノ言ナリ而シテ獨逸國民ノ確信ナリ百萬ノ人ヲ殺シ幾多ノ國ヲ荒敗セシメタル慘酷タル戰爭ノ後佛國ノ隣地ニ於テ教ヘラレツツアル處ナリ如何ニシテ佛國ハ之ニ對シ無關心タリ得ヘキヤ

諸君余ハ今ヤ軍備縮少ノ物質的方面ヲ述フヘキ順序ナリ

兵員ノ點ヨリ之ヲ見ルニ獨逸ハ大戰終了後尙七百萬ヲ有セリ勿論之等ノ兵員ハ現在軍隊トシテ編成セラレオルモノニ非サルハ明ナルモ其指揮者ヲ有シ明日ニモ之ヲ動員シ得ヘキモノナリ

講和條約成立後獨逸ハ「Reichswehr」ト稱スル警備軍ヲ組織セリ而シテ其職務ハ純然タル警察的ノモノタルヘキモノニシテ國內ノ秩序ヲ維持スルニアリキ然ルニ其數ハ十萬人ニ過キサルモ其人員ハ一旦事アル際指揮ノ任ニ當リ得ヘキ舊軍隊ノ士官及下士ヲ網羅シ而シテ陸軍省ノ祕密ノ命令ニヨリ單ニ警察事務ヲ行フニ止ラス軍事の演習ヲナセリ其他戰後獨逸ハ種々ノ形式ニヨリ軍事的團體ヲ組織セリ第一ニ舉クヘキハ住民軍（「Einwohnerwehren」）ニシテ特志民兵ヨリ成リ第二ハ一ツノ戰時組織ヲ有スル「オルゲニツツ」トス而シテ「アインボーネルペーレン」ハ此「オルゲニツツ」ノ下ニ大ナル勢力ヲ蓄フルニ到レリ「ババリア」國ノ首相ノ協商國ニ對スル反對運動ノ際傲語シ「吾人ハ何時ニテモ小銃、機關銃ヲ有スル三十萬ノ兵ヲ動スハ難カラス」ト云ヘハ此住民軍ノ力ヲ意味セルニ外ナラス

今ヤ之等ノ兵力ハ解散セラレタリ吾人ハ獨逸ノ其義務ヲ行ヒタルヲ認ム現在獨逸國政府ハ「グイルト」首相ノ下ニ最モ

誠意アル態度ヲ示シ吾人トノ諸種ノ約定ハ之ヲ忠實ニ履行セントセリ只「グイルト」政府ノ基礎ハ甚鞏固タラサルモノナリ

「グイルト」政府ハ住民軍ヲ解散セリ然ルニ之ニ代リテ憂慮スヘキモノ發生セリ即保安警察（「Sicherheits Polizei」）ナル十五萬ヨリ成ル警察隊ニシテ職業的軍人タル士官下士ハ殆ト凡テ之ニ加盟シ軍事的教練ヲ繼續セリ吾人ハ之ニ對シ解散ヲ要求スルヤ保護警察（「Schutz Polizei」）ナル新ナル組織ヲ作り十五萬ノ人員ヲ有シ而シテ地方的警察ヲ司ルニ止ラス中央政府ニ直屬シテ活動セリ即合計二十五萬ヨリナル警察員ハ日夜一朝事アル時ニ應スルカ爲メニ訓練サレツツアルナリ

要スルニ七百萬ノ兵員ハ其私生活ニ歸ル事ナク諸種ノ形式ノ下ニ團體ヲ組織シ獨逸國民ノ特有ノ驚クヘキ巧妙ナル手段ニヨリ或ハ有志團體ヲ作り或ハ軍人會ヲ設ケ直ニ之ヲ動員シ得ヘク準備整ヘリ

余等佛國人ハ其動員ノ如何ニ速ニ行ハルルヤヲ知悉セリ上部「シレジャ」事件ノ紛糾ヲ來セル際獨逸ハ殆ント數週間否數日ノ間ニ小銃、機關銃、大砲、裝甲車、其他十分ナル軍事材料ヲ有スル四十萬ノ兵員ヲ集メ得タリ如斯ハ即動スヘカラサル事實ナリ

要之獨逸ハ僅々數週間内ニ六百萬乃至七百萬ノ兵員ヲ徵募シ得ヘシ然リ而シテ之カ指揮者タルヘキ者ノ數ニ缺ク所ナシ

余ハ正義ヲ愛スル米國民ノ前ニ問フ諸君ノ隣地ニ其歴史の仇敵アリ而シテ彼等ハ今尙有形無形ニ諸君ニ對スル敵對行爲ヲ營ムヲ休メサルモノト想像セヨ諸君ハ之ニ對シ無關心タリ得ルヤ否ヤ

諸君ハ如斯危險ノ前ニ其力ヲ弱ムルカ如キ事ヲ爲シ得ルヤ否ヤ

次ニ問題トスヘキハ軍事材料ノ點ナリ勿論此點ニ關シテハ同盟國委員會ニ於テ十分努力セラレツツアルハ余モ之ヲ認ム即我士官ノ監督ノ下ニ多クノ大砲ハ破壊サレ或ハ自ラ破壊セルモノト稱セラル其間疑ナキニ非スト雖モ然レ共要スルニ

軍材料ノ問題ハ之ヲ重要視スルニ足ラス諸君ハ戰時武器供給ノ如何ニ迅速ニ行ハルモノナルヲ知ラルヘシ然リ而シテ獨逸ニ於テハ其旺盛ナル工業力ハ戰時軍用ノ爲メニ一齊ニ活動スルニ於テオヤ獨逸ハ其武器供給ノ點ニ關シテハ單ニ其國內ノ工業ヲ利スルニ止ラス外國ヨリ之ヲ仰クニ難カラス例之「スカンディナヴィヤ」地方ノ諸國ニ於テ武器製造ノ行ハルハ到底吾人ノ監視ノ及フ限リニ非ス

如斯武器製造ノ監視ノ點ニ關シ諸君ハ遺憾ナキヲ期シ得ルヤ軍艦ノ建造トハ自ラ趣ヲ異ニス軍艦廢棄ニ於テモ其廢棄ヲ行ヘリヤ否ヤ諸外國ニ於テ知ル事ヲ得サルモノナリトスレハ何人カ其廢棄ヲ實行スルモノアリヤ獨逸ニ於ケル小銃、機關銃ノ製造ニ對シ十分ナル監視ヲ行ヒ得ヘキヤ否ヤ余ハ諸君ニ問ハント欲ス

余ハ之ニ類似スル事例ヲ記憶セリ曾テ普魯西亞ハ「ナボレオン」ヨリ軍備撤廢ヲ命セラレタリ而シテ其無抵抗ナルヘキ獨逸人ニ對シ佛國ハ再ヒ戰場ニ相見ユルコトナレリ如斯ハ佛國人ノヨク忘レ得ル所ニ非ス

或ハ佛國人ハ輕佻ナル國民ナリト云フ誠ニ佛國人ハ永ク一事ニ執着スル事ナキ國民ナリ然レ共今同ノ大戰ノ慘害ハ到底之ヲ忘ルルヲ得ス吾人自ラ守ラサルヘカラサルナリ

諸君吾人ノ四圍ノ事情ハ既ニ如斯シ然尙之ニ止ラス歐羅巴ニ於テ何處ニ所謂平和アリヤ平和克復以來佛國ニシテ若シ今日ノ軍備ナカリシナラハ戰爭ハ再ヒ開カレシニ非サルカ

之ヲ露國ニ見ルニ即露國ハ名義上百五十萬ノ兵ヲ有シ又現ニ六十萬ノ兵力ヲ擁シテ果シテ何ヲ企テントシツツアリヤ彼ハ獨逸ト機脈ヲ通シ波蘭ヲ橫斷セントセリ過激派軍ニシテ若シ波蘭ヲ越エテ獨逸國ニ於ケル一味ト會合スルニ到ラハ佛國否全歐洲ノ運命ハ知ルヘカラス

佛國ヨリ之ヲ見レハ現在露國ノ狀態ハ最モ憂慮スヘキモノアリ其軍隊、其武器ノ問題或ハ將來其獨逸トノ關係ハ吾人到底知ルヲ得サル所ナリ

吾人ハ先ツ生キザルヘカラス然モ之レ佛國ニトリテ最モ多ク保障サレタルモノナリト云フヘカラサルナリ

海軍軍備制限ノ問題ハ陸上ノソレト自カラ異ラサルヲ得ス海上ノ關係ニ於テ之ヲ見ルニ吾人ハ相共ニ友人ナリ何等戰爭ノ脅威ナシ然モ諸君ハ尙十分ナル海軍力ヲ有セラル其海上ノ勢力ヲ維持シ其生存ヲ確保スルカ爲メニ必要ナラハ之ヲ保有スルハ正當ナリ

然ルニ陸上ノ危險ハ如斯モノニ非ス即チ危險ハ吾人ノ周圍ヲ徘徊シテ去ラス余ノ始メ平和ノ爲メニ全權ヲ受ケテ此會議ニ列席セントセル際余ノ國內ノ輿論ハ實ニ如斯事態ニ對シ最モ沸騰セリ余ハ平和ヲ愛好スル點ニ於テ最モ熱心ナルモノアリト雖モ余ハ余ノ國ヲ平和ノ道ニ進マシムルニ付キ將來ニ於テ重大ナル責任ヲ感セスンハ非ス

事態ヲ樂觀シ我武力ヲ弱メ或ハ我祖國ヲ滅亡セシムルカ如キ事アラハ余ハ實ニ佛國ニトリ叛逆者タルヘシ

最近獨逸ハ上部「シレジャ」事件ノ際佛國ノ軍備ヲ知ラス其地ニ帝國軍（「Reichswehr」）ヲ派遣スヘキ旨通知シ來レリ余ハ勿論之ヲ拒絕セルモ若シ余ノ背後ニ武力ナカリシナラハ余ノ拒絕モ其效ナカリシナルヘク戰後尙國狀安定セサル小國家多キ歐羅巴ノ平和ハ危險ニ瀕セシナルヘシ然モ其事無キヲ得タルハ吾ニ武力アリシ爲メニ外ナラサルナリ此點ハ最モ慎重ナル考慮ヲ拂フヘキ問題ニシテ吾人ノ漸進的平和ニ到達スル要點ナリト信ス

諸君要スルニ軍備ヲ制限セントスル企圖ニ對シ余ハ陸上ノ關係ニ於テ到底第三者タリ得サルモノ也
休戰以後佛國ハ直ニ軍隊ノ復員ニ着手シ迅速ニ之ヲ完了セリ佛國軍事法ハ現役兵ヲ三級ニ區別シ現役年限ヲ三ケ年ト定ム而シテ其軍事法ハ今尙廢止サレタルニ非サルモ政府ハ現役年限ヲ二ケ年ニ短縮セリ之レ大ナル縮小ナリト云ハサルヲ得ス即殖民地ノ秩序維持或ハ平和條約ニ基ク諸種ノ役務即「ライン」地方或ハ人民投票區域ニ要スル兵員ヲ除キ實ニ佛國ハ其常備軍ノ三分ノ一ヲ減少セルモノナリ加之佛國政府ハ將來其現役年限ヲ半減スル意圖アルヲ以テ現役ノ兵數モ亦半限サルルコトトナルヘシ

余ヲシテ忌憚ナク言ハシムレハ之以上ノ減少ハ不可能ナリ佛國ハ如斯冒險ヲ行フヲ得ス
或ハ人我ニ言ハン如斯危險ニ對シテハ相共ニ之ヲ當ラント然レトモ吾人ハ他ノ力ニヨリ自ラ安キヲ望ムモノニ非ス余ハ

又會議ノ目的ノ制限ヲ企ツルモノニ非ス誠ニ凡テノ問題ハ研究サレ審議サルヘキモノナルヘシ只余ハ現在ノ佛國カ戰爭ニ對シ精神の準備ヲ怠ルコトハ歐洲ノ平和ニ取リ反ツテ危險ナルヲ諸君ニ云ハント欲スルノミ獨逸ヲシテ其敵意ヲ拋棄セシムルハ獨逸ヲシテ佛國ノ孤立ナラサルヲ知ラシムルニアリ然ルトキハ獨逸ノ勤勉ニシテ事理ニ通スルモノハ共和政府ノ基礎ヲ固ムヘク舊獨逸ノ煽動モ其效ナキニ到ルヘシ此時ニ於テハ始めテ確定的平和ハ世界ニ確立サルモノト云フヲ得ヘシ然レトモ此時期已ニ到レリト云フヘカラサルナリ

若シ此會議ニヨリ佛國獨リ軍備ヲ休メス軍備制限及恆久平和ニ反對スルモノナリトノ批難ヲ中外ニ發セシムルコトナラシムルコトアラハ余ノ最モ遺憾トスル所ナリ

三、英國全權「バルフォー」氏

余ハ「ブリアン」氏ノ雄辯ヲ聽キテ氏ノ心奥ニ横ハルトコロノモノヲ知ルコトヲ得タリ即チ佛國ハ米國又ハ英國ニハ存セサルトコロノ恐怖ヲ夢寢ノ間ニモ忘ルル能ハスト謂フコト之ナリ

吾人ハ又氏ノ演說ニ依リ今日陸軍問題ノ解決カ尙好望ナラサルヲ知リタルカ海軍問題ノ解決カ好望ナルニ反シ何故陸軍問題ニ付テハ然ラサルカ

是レ「ブリアン」氏ノ詞ヲ借リテ謂ハハ海軍問題ニ關シテハ精神の武裝解除アルニ因ルモノニシテ此ノ精神の武裝解除コソ物質の武裝解除ノ基礎トハ爲ルナリ

反之陸軍問題ニ關シテハ吾人ヲ初メ事情ニ精通セル佛國ハ露國又ハ獨逸ノ精神の武裝解除ニ付其ノ進歩ノ程度未タ直ニ物質の武裝解除ヲ許スヘキ程度ニ達シ居ラサルコトヲ確信スルナリ

余ハ右ノ說ニ關シ何等ノ言說ヲモ吐カムトハセスシテ專ラ諸氏ノ判斷ニ訴ヘムトスル者ナルカ只茲ニ一言セムト欲スルハ「ブリアン」氏ハ佛國ノ精神の孤立ヲ懸念セルカ如キモ過般ノ大戰ニ於テ英國カ劍ヲ執リテ立チシハ獨逸ノ壓迫ニ對シ世界殊ニ佛國ノ自由ヲ防護セムトセシ爲ニ外ナラス之カ爲英國ハ一百萬ノ生靈ヲ犧牲ニ供シタルナリ

吾人ハ此ノ犧牲ヲ悲シムモ之ヲ悔ユル者ニ非ス而シテ將來ニ於テモ英國ハ國際の自由カ蹂躪セラルルコトヲ座視スルモノニ非ルナリ

以上ハ「ブリアン」氏ノ雄辯ヲ聽キテ余ノ感シタルトコロナリ終ニ臨ミ余ハ氏及佛國ニ對シ今後トモ益々平和政策ヲ執リテ繁榮ヲ致サレムコトヲ希望ス

四、伊國全權「シャントツ」氏

余ハ「ブリアン」氏ノ雄辯ヲ聽キテ佛國カ種々ノ困難ヲ排シテ誠心誠意陸軍軍備制限問題ヲ考究セムトスルヲ知り欣快ノ情禁スル能ハス

余ハ佛國カ其ノ國家ノ安全ノ爲ニ絶對必要ナリト思惟スルトコロニ付敢テ是否ノ評ヲ挾マムトスル者ニ非ス余ハ只一般の陸軍軍備制限カ一日モ早ク實現セムコトヲ熱望スル旨ヲ謂ハムトス蓋シ伊國ハ平和主義ヲ以テ其ノ政策ノ原則ト爲スモノナレハナリ

伊國ハ其ノ軍備ヲ能フ限リ減縮セリ其ノ海軍費ハ戰前ニ比シ多大ノ削減ヲ加ヘタリ今日陸海軍ノ總員數ハ二十萬ニシテ更ニ之ヲ十七萬五千人及ヒ蠻人兵三萬五千ニ減縮スルコトヲ計畫シツツアリ

伊國ノ本會計年度ニ於ケル通常軍事豫算ハ警察費千百萬弗ヲ加ヘ五千二百萬弗ニシテ戰爭ノ跡始末ニ要スル臨時軍事豫算ハ六千二百萬弗ニ過キス

サレト歐洲ニ於ケル軍備制限問題ヲ完全ニ解決セムトセハ戰爭ノ結果創設又ハ改造セラレタルトコロノ諸國ノ軍備ヲ考慮ニ容ルルコト必要ニシテ問題ハシカク簡單ニ非ス宜シク之ヲ全體トシテ考慮セサルヘカラス而モ本問題ノ解決ハ焦眉ノ急ヲ要スルナリ

最後ニ余ハ本會議カ現下幾多ノ困難ナル問題ニ執掌スルト共ニ陸軍軍備制限問題ニモ注意セムコトヲ希望ス蓋シ本問題ノ解決ハ「ブリアン」氏ノ謂ハレタル如ク平和ノ氣風ヲ全世界ニ作興スルノ根本條件ニシテ之ニシテ解決セサレハ戰時及

加藤全權

五、加藤全權
戰後ニ於テ痛苦ヲ極メタル諸國ノ經濟的及社會的改造ハ得テ望ムヘカラサレハナリ

日本ハ國家ノ安全及國內ノ秩序維持ニ必要ナル程度以上ノ陸軍軍備ヲ制限シ以テ國民ノ負擔ヲ輕減セムトノ主義ニ對シ
滿腔ノ贊意ヲ表ス

元來陸軍ハ各國ノ地理的地位及其ノ他諸般ノ事情ニ依リテ其ノ大小ヲ決定スヘキモノナルカ而モ此等ノ事情ハ複雑ヲ極
ムルヲ以テ其ノ比較困難ニシテ海軍ニ於ケルカ如ク一般の制限ノ計畫ヲ樹ツルコト容易ノ業ニ非ルナリサレト日本ハ極
東ノ形勢ト其ノ防禦的ノ爲ニ絶對必要ナルモノヨリ以上ノ陸軍軍備ヲ維持セムトノ意思全ク之無キナリ

白國全權

六、白國全權「ド、カルティエ」男 (Baron de Cartier)

白國ハ其ノ中立ヲ保障スル諸強國ノ約束ヲ信シテ四分ノ三世紀間平和ト軍備制限トノ政策ニ忠實ナリキ而モ之ニ對シテ
報ヒラレタル所ハ大戰ニ依ル慘虐ナル災害ニ外ナラス

白國ハ其ノ特殊ナル地理的地位ト事情トニ鑑ミ國家ノ安固ヲ計ルノ必要上千九百二十年佛國ト防禦ノ爲ノ軍事協約ヲ締
結シタルカ是レ獨逸ノ挑戰セサルニ攻撃ヲ加ヘムトスルニ備フルモノニ外ナラス今日白國カ保有スル所ノ軍隊ハ國家ノ
安全ノ爲絶對ニ必要ナルモノニシテ之ヨリ以下ニハ減縮シ得サルモノナリ

サレト「アルベール」王ノ謂ヘルカ如ク白國國民ハ一般の狀態カ白國ヲシテ軍備制限ヲ行ハセ得ム日ノ來ランコトヲ熱
望スルモノナルコトヲ茲ニ謂ハムトス

「ヒューズ」

七、米國國務卿「ヒューズ」(Hughes) 氏 (議長)

余ハ「ブリアン」氏カ佛國ノ地位及政策ニ付述ヘラレタルコロヲ聽キ米國全權トシテ一言ナカルヘカラサルヲ覺ユ
米國ハ未タ曾テ佛國ノ語ルトコロニ耳ヲ傾ケサリシコトナシ米國人心ハ佛國ノ勇氣ト犧牲心ニ感激シ其ノ自由制度ノ爲
ニ捧ケタルコロノ努力ハ我國民ノ記憶ニ新ナリ

「ブリアン」氏ノ演說セル所ニ依ツテ見ルモ今日吾人カ大理想ノ實現セムトスルニハ平和ニ對スル意思カ根本條件ナルコ
ト明カナリ而シテ平和ニ對スル意思ハ自由ト正義ノ制度カ凡ユル平和ヲ愛好スル國民ニ依リ確保セラルル迄ハ之ヲ望ム
コトヲ得サルヤ明カナリ

余ハ「ブリアン」氏ノ言ニ對シ自由ト正義ノ擁護者ハ精神的孤立ニ陥ルコトナキヲ謂ハムトス
吾人ハ陸軍軍備制限ヲ實行スル上ノ種々ナル困難ヲ了解セリ相互了解及世界平和維持ヲ進捗セシムルノ根本條件ハ種々
ノ困難ヲ良ク語り良ク聞キ而シテ吾人ノ追求セムトスルコロノ政策ノ途上ニ横リテ之カ障害ヲ爲スヘキ一切ノ危惧ノ
念及危險ヲ了知シテ後實際上行ヒ得ヘキ計畫ヲ樹ツルニアリ此ノ如クシテこそ平和意思ハ初メテ之ヲ有效ニ發現スルコ
トヲ得ヘシ

吾人ハ今日之レ以上問題ノ詳細ニ互ラサルヘク又如何ナル實際手段ヲ執リ得ヘキヤヲ豫見シ得サルモ本會議ニ出席セル
代表者諸氏ノ演說ニ依リ吾人ハ如何ナル武力、人力、物質力ニモ優リテ國家安全ノ保障者タルヘキ氣風ノ茲ニ發生スヘ
キヲ信シテ疑ハス即チ其ノ利益ヲ自覺セル世界カ相互ニ相倚リ相助ケントスル氣風ニシテ又熱誠之ヲ求ムルニ於テハ平
和ハ永ク吾人國民間ヲ支配(不明)基クモノナリ